

③ 和上の伯母様

【信仰に悩める人々へ】 七十頁 (大正十三年九月)

・・・私の伯母も先頃苦しみ抜いて、「何遍聞いても あのどうも どうもが、のきません。もう一寸のような気がするが どうでしょうか。」 今晩はどうでもこうでも聞き抜かねばおかぬという意気込みでした。

いくら話しても、「どうも気済みがしません。有難味がありません、喜ばれません」と申されますから、

「喜ぶ心も浮かばず、ありがたい思いにもなれず、心は常に散乱しているし、自分にわからん心で、ご信心いただいたと言つて何になるもんですか。どうもなれないのがあなたの自性です。久遠劫よりどうもなれんなれんとやっ来て来た心は、何万年経つてもはつきりいたしません。貴女の心の中に真実がありますのなら 三世の諸仏方に捨てらるるはありません。どうもなれないから地獄一定なのです。」

今迄は あなたは他人が地獄に行つて自分は極楽へ参れるような気でいられたでしようが。それを、ご開山さまは邪見憍慢の悪衆生と申されたのです。よく考えて見れば悪人は自分より他にないのです。あなたの自性はどうもなれないのです。あなたはどうもなれないといわれていますが、仏さまの願力は自分ではつきりなれる善人よりも、動きのとれない三悪の火坑に飛込むあなた一人につききりで、どうもなれぬまま他力で引き受けようと申されるのです。あなたがどうかなつたら五劫思惟はやりなおしです。どうもなれないその心があればこそ如来様の願力不思議が働くのです。

ここを善導大師は「衆生の貪瞋煩惱の中に能く清浄願往生の心を生ぜしむ」と申されたのは、動きのとれない心を貪瞋煩惱中と申されたのです。

清浄願往生の心とはご信心、ご信心は南無阿弥陀仏が一人働いて胸に届いた時を申しますので、大師は今の願往生の心を次の頁では、彼の願力の道に乗じてと申されてありますが、南無阿弥陀仏の願力はあなたの汚れ果てた、どうもなれん機をそ

のまま引き受けてくださるのです。」

と話しますと、「どうもなれん機がお目当てなれば私が正客です」と非常に喜びました。「その喜ぶ心を他力の信と申します」と言いました。